

# 南天銀河を目指して(2)

黒田 瑞星

今年の星なかま新年会の席上、桑田さんと福原さんそれに私の3人で、「来年のGWに南天銀河を見に行こう」と盛り上がりました。

その後「行き先はパースか？高橋さんも仲間に加わるかも？夏合宿で予約先の決定までいこう！」というところまで話がすすんできました。

いよいよ現実味を帯びてきた「南天銀河の旅」。今回は2回目のレポートです。

PREV 2019年5月の月齢 NEXT  
 2019年5月 表示  
 今月(2018年2月)

日	月	火	水	木	金	土
			1 26	2 27	3 28	4 29
5 0	6 1	7 2	8 3	9 4	10 5	11 6
12 7	13 8	14 9	15 10	16 11	17 12	18 13
19 14	20 15	21 16	22 17	23 18	24 19	25 20
26 21	27 22	28 23	29 24	30 25	31 26	

## 1. 「南天ウォッチング」Ver. 1の完成

Night Sky Observers Guide の第3巻で★4つ以上の評価を得ているディープスカイ天体(総数123)をまとめていきました。

- 例 -

(1) インディアン座 Ind

1本の矢をつかんだ所にあるα星だけは3等の明るめの星なので、日本でも透明度の良く晴れた夜には、つる座のα星とβ星を結んだ線を西側よりに2倍延長したところで見つけることができる。

(※星座名の下で紹介文は藤井旭氏の原稿・天文ガイドの記事より)

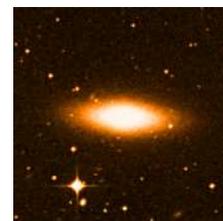
NGC 7041 ④	21h 16.5m	-48° 22'	SA(rs)O-	171
3.6' × 1.5'	m11.2v	SB12.9		
URANOMETRIA2000.0	179左	POCKET SKYATRAS	68、79	

(※表右端中段下の数字があるものは、オメーラの南天カタログナンバー)

150倍。6.9等星(5.5'西に8.5等の星を持つ広い二重星)の北東に位置。6等星の北東14'にNGC7049が見つかるだろう。NGC7041は長く薄いきれはしで、丸い目立つ核を持つ。ハローは1.5' × 0.5'にほぼ東西にのびる。10.7等星が南東2'にある。

※表下文はNight Sky Observers Guideの本文訳

※右写真はESO Online Digital Sky Surveyより転載 <http://archive.eso.org/dss/dss>



## 2. 機材の選定

そろそろ機材を選定して、その使用に慣れていかななくてははいけません。今のところ以下のように考えています。

- 目的1 銀河に浸りたい
- 目的2 南天ならではの天体を見たい
- 目的3 広角で写真におさめたい  
できれば、自分もそこに写り  
こみたい

火星関連で出費もあり今回はあきらめました。次回、大杉さんと一緒に行くときは、買おうと思っています。

観望1	Canon 10×42 L IS WP 防振双眼鏡
観望2	VMC110L もしくは 15cm程度のニュートン Sky Watcher AZ-GTi マウント Vixen AL70 三脚
撮影	Cannon D60 (冷却改造)
	Sigma 14mm F1.8 DG HSM Art
	Sigma 4.5mm F2.8 DC HSM
	GIZTO 三脚
	タカハシ TG-SP スカイポート
	NIKON COOLPIX B700
	iPhone 7+

## 3. 合宿後

Eチケットが届き、いよいよ本格的に旅の準備がはじまりました。